



神々の言葉
信仰編



星 良謙

天使たちの心

幸福なときに神と出会う人は幸せです
その幸福をさらに輝くものとすることができるでしょう
悲しみにあるときに神に出会う人は幸せです
神の愛を知ることができるでしょう

悲しみに効用があるとすれば
悲しみの心を知ることができることです

天使たちもまた悲しみを知る者たちなのです
天使たちはあなた以上に悲しみを知る者たちなのです
多くの悲しみを知る者たちなのです
そして悲しみを見つけるたびに涙流すのです

夜空に輝く星は天使たちの涙なのです
地上に生きる者たちが愛に満たされることが
地上に生きる者たちが歓びに包まれることが
地上に生きる者たちが幸せに生きられることが
天使たちの願いなのです

しかし地上に生きる者たちはそのことを知らないのです
天使たちは地上に生きる者たちが気付かなくても
日々働き続けているのです
神が一日とて休むことを知らないように
天使たちもまた休むことを知らないのです
多くの悲しみを見過ごせないのです
感謝されたくて天使たちは働いているわけではありません
地上に生きる者たちの悲しみを見過ごせないのです
だから感謝されなくても働いているのです
それが天使の心なのです

笑いの神様

笑いの神様は陽気な神様です
いつも一人でも多くの人が
笑いの絶えない暮らしができることを
願っています
だから人々に笑いを与えています

笑いの神は
人々が笑うのが大好きなのです
だから人々に笑いの絶えないとき
そこには笑いの神様がいます

しかし笑いの神様は
あなたが他人をからかうとき
悲しげに見守ります
あなたが他人の不幸を笑うとき
笑いの神様は去って行きます

笑いの神様は
人々に笑いを与えるのが好きなのです
笑いの神様は
笑うことで人々が幸せになるのが好きなのです
だから笑いの神様は
あなたの幸せな笑顔が好きなのです
あなたがいつも笑顔なら
あなたはいつも神様と一緒にいます

愛の条件

愛の名を借りた偽善は許されないのです
愛の名を借りて相手を支配することは許されないのです
愛の名を借りて自分の考えを押し付けることは許されないのです
愛は道具ではないのです

愛の名を借りて相手を支配してはならないのです
操り人形のごとく自分の考えで相手を動かすことが愛ではないのです
愛の名を借りて相手の自由を奪ってはならないのです
愛することは相手を縛り付けることではないのです

相手が自分の考える通りにならないと嘆くなら
愛を語るのはやめなさい
相手の自由を奪いたいのなら
愛を語るのはやめなさい
愛されていることを確認し続けたいならば
愛されなければ愛せないのであるならば
愛を語るのはやめなさい

愛は取引ではありません
神の愛を知りなさい
神の愛は条件をつけないのです
神はすべてを受け入れるのです

コスモスの花はコスモスの花の美しさがあるのです
パンジーの花はパンジーの花の美しさがあるのです
神はコスモスの花にパンジーであることを求めないのです
神はコスモスの花の美しさを喜ぶのです
神はコスモスの花が最も美しく咲くことを喜ぶのです
コスモスの花にパンジーの花となることを求めるならば
愛を語る資格をなくすのです

花を育てるがごとく

花を愛するがごとく自分の人生を愛しなさい
花を愛するがごとく自分の大切な人を愛しなさい
花を育てるがごとく自分の親を愛しなさい
花を育てるがごとく自分の子供を愛しなさい
花を育てるがごとく自分の兄弟を愛しなさい
花を育てるがごとく自分の隣人を愛しなさい
花を育てるがごとくすべての人を愛しなさい

花を育てるがごとく自分の人生を生きなさい
花を育てるがごとく愛を育てなさい
花を育てるがごとく善き心を育てなさい
花を育てるがごとくやさしくありなさい

日々花に水を与えるがごとく愛を与えなさい
日々花に水を与えるがごとくやさしくありなさい
日々花に水を与えるがごとく誠実でありなさい

忍耐強くありなさい
気長でありなさい
焦ってはならないのです
一日で花は大きくなりません
焦ってはならないのです
しかしあきらめてはならないのです
手をかけすぎてもならないのです
ときには枝を切らねばならないのです
賢くあらねばならないのです

花を育てるがごとくやさしく見守る心が大切なのです
花を育てるがごとく気長であることが大切なのです
毎日水を与え続けることが必要なのです
早く花が咲くことが大切ではありません

焦ってはならないのです
しかし手を抜いてもならないのです
花を愛する気持ちがあるならば

もっと自分の人生を愛しなさい
もっと自分の人生を大切にしなさい

心の傷

優しさを装うことはやめなさい
優しさの押し売りはやめなさい
愛の言葉で自分を飾ってはならないのです
愛を語るのは神を語ることなのです
愛を説くのは神の教えを説くと同じことなのです

安易に人の心に立ち入ることをやめなさい
安易に優しさを説くことをはやめなさい
安易に心の傷に触れることはやめなさい

静かに見守ることも愛なのです
何も言わないことも優しさなのです
知恵なき愛は不毛なのです
悲しみを知らぬ者の優しさは相手を傷つけるのです

誰にも触れられたくない心の痛みもあるのです
一人涙を流すときも必要なのです
その心の痛みを知る者ならば黙って見守るのです
それが優しさなのです

励ましが苦痛となることもあるのです
慰めが屈辱と受け取られるときもあるのです
同情の言葉が相手を怒らせることもあるのです

時間だけが優しさとなり
沈黙だけが愛となることもあるのです
愛を語ることだけが愛ではないのです
愛はときには沈黙となるのです

神の愛を求めなさい

愛されていないと思うのは辛いことです
愛されたいと願う人から愛されないことは辛いことです
誰からも愛されていないと思うことは辛いことです
誰からも愛されていないと思っても
神があなたを愛しているのです

あなたは神に愛されているのです
世界中のすべての人に嫌われたとしても
神はあなたを愛しているので
限りない神の愛を知ることが大切なのです
神の無限の愛を感じる大切なのです

まず神の愛を知りなさい
神の愛を知るならば
すべてのものを失ったとしても後悔しないのです
まず神に十分に愛されていることを知りなさい
他の誰からも愛されていないと思っても
神があなたを愛しているのです

神の愛を独り占めにしなさい
あなただけの神だと思いなさい
あなた一人のための神だと思いなさい

神の愛を知りなさい
神の愛を受け取りなさい
あなたの好きな神の名を呼びなさい
子が母の名を呼ぶように
あなたの好きな神の名を呼びなさい

神はあなたを見捨てないのです
あなたの心の傷が癒されるまで
あなたの側にいてくれるのです
そしてあなたが立ち上がるのを待っているのです
元気に歩み始めるのを待っているのです
あなたが元気に歩み始めたとき

神はあなたの姿を見て微笑むのです
輝いているあなたを見て微笑むのです

悲しみに沈むとき

人生が苦難の連続と考えるならば

夜空を見上げなさい

夜空に瞬く星のきらめきが

あなたの心の傷を癒すのです

人生が悲しみの連続と考えるならば

森の中を歩きなさい

ゆっくりとした時間の流れの中に生きる植物たちが

あなたの悲しみをやわらげてくれるのです

生きている価値がないと考えるならば

浜辺に立ちなさい

打ち寄せる波の調べに耳を傾けるならば

あなたは穏やかな心になれるのです

しかし、あなたは思うかもしれない

星空が雲で覆われているではないか

降りしきる雨で森を歩けないではないか

荒れ狂う波で浜辺に近寄ることすらできないではないか

あなたにはそれが永遠に続くとしか思えないとしても

あなたが自分の価値に気付いたときには

それまでとは違った風景として見えるのです

あなたが本当の自分の姿に気付いたときには

あなたには輝く自然に見えるのです

傘の役目

晴れた日が続くならば
人は傘のことを忘れます
雨が上がるならば
荷物になると邪魔にされ
傘を持って来たことすら忘れます

それでも傘は文句を言うこともなく
自分の仕事をしています
傘がないと困る日は
多くの人が嫌います

しかし神様も傘と一緒になのです
人は幸せなときには神様を忘れます
苦難と言う名の雨が降るときに
神様の名を呼ぶのです
そして傘をさしているのに
雨に濡れたと不満を語り
やがて傘を忘れます

あなたの傘はどこにありますか
神様に感謝する心を持つならば
それがあなたの傘になるのです
あなたが神様に感謝する心を忘れるならば
傘はどこかに置き忘れるのです

あなたが笑顔を忘れないならば
神様があなたの傘となり
あなたが愛の心を忘れないならば
神様があなたを雨から守るのです
あなたがいつも愛の心を持つならば
神様はいつもあなたと一緒になのです

神の証を求める者たちへ

神の証を求めるのはやめなさい

いくらあなたが神の証を求めたとしても

神はあなたに奇跡を起こさないのです

神はあなたの前にその姿を現すことはないのです

愚かなことなのです

あなたのその心が神をどれだけ悲しませるのか

あなたは自分の親に自分の親であることの証を求めますか

親らしいことを何一つせぬと怒ったとしても

それは親であることを認めているから怒るのではないですか

あなたはレストランの前に立ち

お前の店の料理が美味しいかどうかを証明してみせろと叫ぶでしょうか

たとえ叫んだとしても誰からも相手にされることもなく

あなたは物乞いと間違えられるでしょう

料理人はあなたに認められる必要などなく

あなたは店に入ることすら拒絶されてしまうのです

あなたのその心では店に入ることすらできないのです

あなたの心に応じた店にしか入ることしかできないのです

あなたが心豊かに暮らしているならば

あなたは神の料理が味わえるかもしれない

あなたが普段の料理であると考えていても

あなたが知らないところで神のスパイスが加えられているのです

あなたが知らないところで神が火加減をしているのです

焦りのままにどれだけ祈ったとしても

その祈りは神に届かないのです

心に波風を立てたままにどれだけ祈ったとしても

その祈りは神に届かないのです

それはあなたが心豊かでないからです

神はすべての人を愛しているのです

神はすべての人が幸せに生きることを願っているのです

しかしそれはすべての人の願いを叶えることを意味しないのです

親は子供の願いをすべて叶えることが義務でしょうか

親は子供の欲しがる物をすべて与えるでしょうか

間違っはならないのです

信仰を損得でしか考えられないのであるならば

あなたは天国の入り口に立つことすら許されないのです

天使たちはあなたの心の中に僅かでも輝きがあるならば

その姿を哀れんで助けてくれることもあるかもしれません

天使たちは神の心を知って欲しいのです

あなたが神の心に気付くのを期待しているのです

しかしあなたが感謝する気持ちを持たないならば

天使たちは悲しげにあなたの前から立ち去るのです

そしてあなたが間違いに気付くまで

天使たちは誰も助けようとはしないのです

神の証を求めるのはやめなさい

神の奇跡を求めるのはやめなさい

天使たちの目から見れば

それは物乞いにしか見えないのです

道行く人に声を掛ける

物乞いの姿にしか見えないのです

沈黙の愛

愛の押し売りはやめなさい
知恵のない愛は相手を傷つけます
優しさの押し売りはやめなさい
静かに見守ることも愛なのです
何も言わないことも愛なのです
何もしないことも愛なのです

誰にも触れられたくない心の痛みもあるので
一人で涙を流すときも必要なのです
その心の痛みを知るならば見守ることがやさしさなのです

励ましの言葉が心の負担となり
同情の言葉が傷つけるのです
誇り高き者には慰められることが
惨めさの証明となるのです

誇り高き者には
その悲しみに
耐えることが
自らの誇りとなり
その苦しみに耐えることが
自らの誇りとなるのです

ただ時間だけが愛となるのです
愛を語ることだけが愛ではないのです
愛はときには沈黙となるのです

苦しきとき

苦悩の海に沈む者たちよ
絶望の海に漂う者たちよ
悲しみに浮き沈みする者たちよ
幸福の島を求めてさまよう者たちよ

あなたの頭上にも星は輝き
あなたの頭上にも太陽は輝いているのです

いつ果てることのない悲しみ
いつ果てることのない苦しみ
その悲しみの涙が
その苦しみの声が
さらなる悲しみを呼ぶのです
さらなる苦しみを呼ぶのです

神はあなたを見捨てません
あなたが神を見捨てたのです

苦しみのままに祈ってはいけないのです
苦しみのままに祈ってもその声は届きません
悲しみのままに祈ってもその声は届きません

その苦しみの中にあっても神の救いを見つけられるならば
その悲しみの中にあっても神の救いを見つけられるならば
神はあなたと共にいるのです
神はあなたの心の中にいるのです

苦しみの中にあっても神の働きを見つけなさい
悲しみの中にあっても神の働きを見つけなさい
苦しみの中にあっても花は咲き
悲しみの中にあっても星は輝くのです

星は一日とて輝くことを忘れないのです
太陽は一日とて輝くことを忘れないのです

花は寒さに耐えながらも花を咲かすのです
いかなる荒地にあらうとも
いかなる場所であらうとも
誰の目に触れることのない場所であったとしても
自分のために花を咲かせるのです

いくら我が身の不幸を嘆いても
いくら我が身の不運を嘆いても
あなたの人生が変わらないのです
いくら同情を集めても幸せには変わらないのです
いくら慰めを集めても幸せには変わらないのです

たとえ耳が聞こえなくても花の美しさはわかるはず
たとえ目が見えなくても打ち寄せる波の調べはわかるはず
たとえ体が動かなくても詩を読むことはできるはず

まず小さな喜びを見つけなさい
まず小さな感動を見つけなさい
小さな喜びを見つけたならば
微笑むことから始めなさい

慰めをいくら集めても幸せはこないのです
同情をいくら集めても幸せはこないのです

しかし微笑みを集めたなら
きっと大きな幸せになるでしょう
喜びの笑顔が一番好きなのが神様なのです

憎しみは消えないかもしれません
怒りは消えないかもしれません
憎しみは憎しみを呼び
怒りは怒りを呼ぶのです
それを知ったとしても
あなたの憎しみは消えないかもしれない
あなたの怒りは消えないかもしれない
許すことのできない相手かもしれない
許しなさいとは言いません

忘れなさいとは言いません
あなたは神ではないのです
許すことができるならば幸せです
あなたの心を神は喜ぶでしょう
しかしあなたの気持ちがおさまらないのであるならば
許しなさいとは言いません

憎しみの心を持つならば花の美しさを知りなさい
怒りの心を持つならば夜空の星を眺めなさい
許せぬ気持ちを持つならば空の青さを知りなさい
あなたのまわりには美しいものがあれているのです
それは神様からの贈り物なのです
地上で苦しむ者たちへの
神様からの贈り物なのです
心の中が神様からの贈り物でいっぱいになったとき
あなたの心も変わるのです
そのとき神様の心を知るのです
神様の心を知ったならば
心静かに祈りなさい
自分を支えてくれた人たちの幸せを祈りなさい
多くの人たちの幸せを祈りなさい
そして笑顔を忘れないでください
それが幸せへの近道なのです

神殿にて如何に祈れども
日々の生活にて神を忘れるならば
その祈りは届かず
神殿にて如何に祈れども
日々の生活にて愛の心を忘れるならば
その祈りは届かず
神殿にて如何に祈れども
日々の生活にて悪しき心を持つならば
その祈りは届かず

神殿にて祈らずとも
日々の生活にて神を忘れぬならば
神の祝福を受け
神殿にて祈らずとも
日々の生活にて愛の生活を忘れぬならば
神と共に生き
神殿にて祈らずとも
日々の生活にて悪しき心を持たぬならば
神の加護を受ける

神の言葉を語らずとも
日々の生活にて感謝の心を忘れぬならば
神は祝福を与え
神の愛を語らずとも
日々の生活にて愛の心を忘れぬならば
神は寄り添い
神の教えを語らずとも
日々の生活にて悪しき心を持たぬなら
神は加護を与える

神は標識の如く
幸せへの道を示せども
その教えを語らず
神は標識の如く
愛の姿を示せども

その愛を語らず
神は標識の如く
守るべき道を示せども
警告を与えず

されば標識を無視する者は
神殿にて如何に祈れども
その祈りは届かず

神様から招待状

神様から招待状が届いたならば
あなたは喜んで出掛けますか
神様からの招待状が届いたならば
あなたは出掛けることをためらいますか
神様からの招待状が届いたならば
あなたは逃げ出しますか

神様からの招待状が届いたのに
あなたは何をためらうのですか
神様から何を聞かれるのか心配なのですか
何を着ていくか迷うのですか
怒られるのではないかと心配なのですか

神様は温かい食事を用意して待っているのです
食卓にはあなたの席が用意されているのです
なのに何をためらうのですか
天使があなたの家まで迎えに来ているのです
なのに何をためらうのですか

天使は希望と言う馬の引く
愛と言う馬車にて
あなたを迎えに来ているのです
その馬車に乗るのに必要なことは
あなたが神様に許しを求めることなのです

神様はいつもあなたの席を用意しています
天使はいつもあなたの家まで迎えに来ています
あなたがそのことに気付いていないだけなのです

神様の道具箱

神様の道具箱はどんな箱だと思いますか
何で好きなものを取り出せる魔法の箱なのでしょうか
それともすべての夢を叶える不思議な箱なのでしょうか
誰にも触れることすらできない箱なのでしょうか
誰にもわからないところに隠されているのでしょうか

天使たちも自分の道具箱を持っています
やさしさの入った道具箱を持つ天使もいます
美しさの入った道具箱を持つ天使もいます
喜びの入った道具箱を持つ天使もいます

天使たちは自分の仕事に合わせた道具箱を持っているのです
天使たちは自分の仕事に合わせて道具を使うのです

しかし神様の道具箱にはかないません
神様の道具箱はいつでも必要な道具を取り出せるのです
でも神様の道具箱の中には何も入っていないです
道具箱の中に何も入ってなくても
神様は必要な道具を取り出せるのです
それは神様が愛の存在だからです

愛は如何なる姿にでも形を変えられるのです
だからいつでも必要な道具を取り出せるのです
神様の愛は自由自在に変化するのです
だから神様には愛しか必要ないのです

神様の宴(うたげ)

神様の宴に並ぶ料理は
どんな料理だと思いますか
すべての人が褒めたたえる
おいしい料理が並び
あなたが食べたこともない
珍しい料理が並ぶと思いますか

神様の宴に並ぶ料理には
最高の食材を使ってあると思いますか
料理を盛る皿は
最高の食器が使われているのでしょうか
その食卓は
最高の家具と最高のテーブルクロスが
用意されているのでしょうか

神様の宴には
どんな音楽が流れていると思いますか
天使たちが美しい声で歌い
最高の楽器にて
あなたの知らない美しい曲を
演奏していると思いますか

神様の宴には
どんな花が飾られていると思いますか
素晴らしく鮮やかな色の花でしょうか
気品に溢れた清楚な花でしょうか
香り豊かな花が飾られているのでしょうか

しかし神様の宴の素晴らしさは
どんなに言葉を尽くしても
語り尽くすことはできないのです
それは神様の宴は
心に愛の溢れている者の宴だからなのです

神様の愛こそが最高の料理となり

神様の語る愛の言葉こそが最高の音楽となるのです
そして神様の宴とはそんな神の愛に溢れた宴なのです
あなたも神様の宴に参加してみませんか
神様はいつでも歓迎してくださるのです
神様はいつもあなたの席を用意してくださるのです

神様の休息

趣味で花を育てる人には
花を手入れする時間は
休息であるとしても
仕事で花を育てる人には
気の抜けない時間となります

趣味で料理を作る人には
料理を作ることが
楽しい時間であるとしても
仕事で料理を作る人には
息の詰まる時間かもしれません

より美しく花を咲かせるために
工夫を重ねるならば
趣味と仕事の区別は
曖昧となるかもしれません
より美味しい料理を作るために
研究し続けるならば
料理を作る時間は
休息でなくなるかもしれません

あなたは休息の時間を失うとしても
美しい花が咲くことに
喜びを得るならば
満足するかもしれません

あなたが休息の時間を失うとしても
多くの人があなたの料理を
満足してくれるならば
後悔しないかもしれません

神様は地上に生きる者たちの幸せな姿が
一番の喜びなのです
だから神様は休息することなく
愛を与え続けるのです

人生と言う名の旅

急ぐことだけが旅の目的ではないはずです
早く着くことだけが大切なことではないはずです
人生と言う旅を急ぐ必要はないはずです

あなたは楽しいことなど何もなかったと言うかも知れない
しかし人は忘れていてのです
道端に咲く花の美しさも
夜空に輝く星の美しさも
心にゆとりをなくし
空を見上げることも忘れていてのです

あなたが気付くことなくとも花は咲いているのです
道行く人々の心を楽しませているのです
しかし、それに気付かぬ人も多いのです
その花は誰かがまいた種かもしれないのです
後から来る人のためにまいた種かもしれないのです
まいた人はその花を見ることはできなくても
その人は知っているのです
多くの人々の心を和ませることを

あなたの服のポケットにも
愛の種が入っているのです
あなたも人生の旅の途中にて
愛の種をまいてみませんか

その花をあなたは見ることはできないかも知れない
しかし、あなたが愛の種をまき続けるならば
あなたの歩いた道には花が咲くのです

あなたが愛の種をまき続けるならば
あなたの人生は実り多いものとなるのです
あなたはそれを見ることはできなくても
多くの人々の心の中に愛という花を咲かすことができるのです
愛と言う花が咲くときに
夜空の星も一層輝くのです

それが神の輝きであることを知るのです

神の贈り物

愛さなければならぬと思うなら
愛そうと思わなければ愛せないのなら
愛を語るのはやめなさい
愛を語ることは義務ではありません
愛を語ることは
人間が神から与えられた最大の喜びなのです
苦悩の中に生きる者たちへの贈り物なのです
その贈り物を義務と考えてはいけません
愛を語ることを義務と考えるならば
人生は不毛の砂漠となります

愛とは優しさだけではありません
愛とは知恵であり
愛とは美であり
愛とは勇気でもあるのです

愛の言葉で自分を飾ってはなりません
愛の言葉で自分を偽ってはなりません
愛の言葉を大切にしてください
それは神からの贈り物なのです

神の許しを知るとき

神はあなたを許されているのです
神はあなたを日々許されているのです
神は日々多くの罪びとを許されているのです
愚かな者たちを 罪深き者たちを許されているのです
日々神は許されているのです
人はその許しの中で生きているのです

多くの方は自分が許されていることにすら気が付かないのです
自分が許されていることを知るならば相手も許せるのです

あなたはすでに許されていることを知りなさい
神があなたを許さないのではありません
神があなたを苦しめているのではありません
あなたが自分を苦しめているのです
あなたが自分を許せなければ誰も許せないのです

あなたも数多くの罪を犯しました
自分の罪の深さを知る者を神は許すのです
神は毎日許し続けているのです
自分の罪の深さを知るならばすでに許されていることを知りなさい

神の愛を信じなさい
神を恐れる気持ちを捨てなさい
そして神に祈りなさい
あなたは神に許されるでしょう

さあ涙をふきなさい
さあ立ち上がりなさい
神が両手をひろげてあなたを待っているのです

悲しみの愛

愛とはやさしさだけではありません
愛とはときには過酷なものなのです
突き放すことこそが愛となることもあります
去ることが愛となることもあります
本当に愛するならば
本当に相手の幸せを願うならば
去らなければならないこともあります
それが本当の愛であるときもあります

いつまでも共に歩むことだけが愛ではないのです
受け入れがたい愛もあるのです
悲しみに沈む愛もあるのです
愛するがゆえに苦しむこともあるのです
愛はときには厳しさを伴うのです

その悲しみがあなたを変えるのです
その苦しみがあなたを鍛えるのです
その悲しみがあなたの優しさを育むのです
その苦しみがあなたの愛を育てるのです

悲しみの淵に沈むなら夜空を見上げなさい
たとえ雲がかかっていたとしても
その雲の向こうでは星が輝いているのです

神は夜空の星のごとく輝いているのです
神はいつもあなたのそばにいるのです
ただあなたが見ることができないだけなのです

愛と自由

鳥が飛ぶことを忘れないように
魚が泳ぐことを忘れないように
人は愛を語ることを忘れないのです

鳥が飛ぶことを教わるがないように
魚が泳ぐことを教わるがないように
すべての人は愛を語るができるのです

人が愛を語ることを忘れてしまったならば
人を愛することをやめてしまったならば
空を飛ぶこと忘れてしまった鳥となるのです
泳ぎを忘れてしまった魚となるのです

愛を語ることは誰にでもできるのです
しかし愛を語ることを忘れることは
鳥が大空を飛ぶことを忘れることと同じなのです
鳥が大空を自由に飛ぶことができるように
愛を自由に語る力を与えられているのです
魚が水の中を自由に泳ぐように
愛を自由に語る力を与えられているのです

なぜ鳥が大空を自由に飛ぶように
愛を語らないのですか
魚が水の中を自由に泳ぐように
愛を語らないのですか
愛はもっと自由に語るべきなのです
愛は人の心を自由にするものなのです

鳥が大空を飛ぶように
魚が水の中を泳ぐように
人の心を自由にするものなのです

愛の語らい

愛を語るのに何をためらうのです

父であり

母であるならば

愛を語るのは恥ずかしいのですか

なぜ親となるならば愛を語るのをやめるのですか

愛を語りなさい

愛を育てなさい

愛を育てることをやめるならば

人生は不毛となるのです

なぜ砂漠のような人生を生きるのですか

なぜ自分の人生を砂漠にするのですか

愛を語ることは難しいことではないはずで

愛を語ることは人の心を豊かにするのです

愛を語ることは人生を豊かにするのです

愛を語りなさい

愛を育みなさい

恥ずかしいことだと思わないことです

わかっているはずだと思わないことです

愛は語ることで命を持つのです

愛はその種をまいてこそ育つのです

愛を語ることです

愛を育てることです

それがあなたの人生を豊かにするのです

愛を語るとき

何故 愛を語ることにためらいを感じるのですか

何故 愛を語ることに恥ずかしさを感じるのですか

愛を語ることは神より与えられた喜びなのです

愛は神より人間に与えられた最大の幸せなのです

神より与えられた幸せであることを知ったならば大切にすることです

その喜びを大切にすることです

愛の種をまきなさい

愛の喜びを伝えなさい

あなたは数多くの人々の心に愛を与えたのです

あなたは数多くの人々の心に愛の種をまいたのです

あなたのまいた種が芽をださないからといって嘆く必要はないのです

いつの日にか、芽をだすことがあるかもしれないのです

あなたは人生の途中で疲れているのです

あなたの目には見えないかもしれませんが

しかし、私には見えるのです

あなたの歩いた道には多くの花が咲いているのです

それをあなたは見ていないのです

多くの人々の心の中にあなたの与えた愛が今も残っているのです

何気ない一言が

あなたは意識すらしていない一言が

多くの人々の心の中に残っているのです

本人すら忘れてしまった言葉であっても

何かしら心の中に残るのです

何か懐かしい記憶として心の中に残っているのです

あなたはまいた種が花を咲かす前に立ち去ってしまったのです

しかしその種は多くの花を咲かしたのです

あなたの歩いた人生は

私たちから見るならば多くの花を咲かせた人生なのです

あなたはそれに気が付いていないのです

天使たちの輝き

天使たちは食事をする必要がありません
天使たちは神様から力をもらっているのです
天使たちは毎日神様から力をもらっているのです
しかし天使たちに力を与えているのは神様だけではありません
それは地上に生きる者たちの笑顔なのです

地上に生きる者たちが笑顔にあふれるとき
天使たちも笑顔になるのです
地上に生きる者たちの笑顔は
天使たちにとって何よりもの喜びなのです
それは天使たちの輝きとなり
それは天使たちを勇気付けるのです

天使たちを悲しませるのは
地上に生きる者たちの憎しみや怒りなのです
天使たちは地上に生きる者たちと
共に笑い
共に悲しむのです
天使たちはいつも地上に生きる者たちの幸せを願っているのです
地上が平和であり
地上が喜びにあふれ
地上に生きる者たちが心豊かであることを
いつも願っているのです

あなたの知らないところで
今日も天使たちは働いているのです
地上に生きる者たちに気付かれることがなくとも
毎日働いているのです
ある者は病院で
ある者は学校で
ある者はあなたの側で
あなたの側でも天使は忙しく働いているのです

あなたの笑顔が天使たちの喜びなのです
あなたの笑顔が天使たちの輝きとなるのです

でも天使たちが一番輝くのは
あなたが神様に感謝の祈りをするときなのです

湧き水

湧き水が湧くが如く
愛を語るならば
あなたの心には愛が満たされます
湧き水が湧くが如く
笑顔を絶やさないとすれば
あなたの心はいつも安らぎに満たされます

井戸水を汲み上げるが如く
愛を語るならば
あなたの語る愛は命を失います
井戸水を汲み上げるが如く
笑顔を作るならば
あなたは心に仮面を被ります

川の水を導くが如く
愛を語るならば
あなたの語る愛は詭弁となります
川の水を導くが如く
笑顔で生きるならば
あなたの笑顔は冷淡となります

愛の言葉で批判するならば
便利な言葉の武器となり
苦悩を知らぬ者には
現実を無視した言葉となるのです

愛の言葉を安易に語るならば
知恵なき愛の言葉は
心優しき者を傷つけ
怠け者を助けるのです

愛を語ることを使命と考える者は
強要することを愛と考えます
愛を語ることを義務と考える者は
干渉することを愛と考えます

愛の言葉を語るなら
自らの言葉で語りなさい
それが神の言葉であるとしても
強要してはなりません
愛の言葉で縛るなら
相手を利用しているにすぎません

愛の言葉で批判する者は
正義を知ることができず
愛の言葉で縛る者は
優しさを知ることができません

心が愛で満たされていないなら
愛の言葉を語るのをやめなさい
心が愛で満たされていないのに
愛の言葉を語るなら
偽善でしかありません

心が愛に満たされていないなら
神に愛を求めなさい
心が愛に満たされていないなら
神に許しを求めなさい
あなたの心が愛に満たされたなら
溢れた愛が言葉となるのです

愛を語りなさい

愛を語ることに慣れていない人が多いのは悲しいことです

愛を語るのは若者だけの特権ではありません

愛を語ることは誰にも許されているのです

愛の言葉は神様からの贈り物なのです

愛は言葉にすることで輝くのです

愛は語ることで増え続けるのです

愛は育てることで大きく育つのです

愛は恋人たちだけのものではありません

愛は夫婦だけのものではありません

愛があるところには神様がいます

愛を語ることは人生の最大の喜びなのです

愛を語ることは恥ずかしいと思うのは悲しいことです

愛を語ることをためらうのはその喜びを捨てることなのです

愛を語ることは神を愛することなのです

愛を語ることは神を知ることなのです

愛は神であり 神は愛なのです

人を救いたいならば

あなたが本当に人を救いたいならば
あなたが本当に愛を説きたいならば
もっと謙虚になりなさい
もっと人の気持ちに繊細でありなさい

あなたが本当に輝く人でありたいならば
あなたが本当に優しくありたいならば
もっと謙虚でありなさい
もっと人への気遣いができるようになりなさい

あなたが本当に人を救いたいならば
相手の話に耳を傾けなさい
あなたが本当に人を救いたいならば
相手の心の痛みを知りなさい
あなたが本当に人を救いたいならば
相手から信頼される人になりなさい

本当に人の心の痛みを知る人は寡黙になります
本当に相手の苦しみを知る人は沈黙を守ります
人の心の痛みが自分の心の痛みであり
相手の苦しみが自分の苦しみとなるのです

人の心の痛みが自分の心の痛みとなり
相手の心の苦しみが自分の心の痛みとなるならば
そこには同情も哀れみもなくなります
それが本当の優しさなのです

自らの罪

罪深き者は自らの罪を知らず
他の者の罪を語る
罪浅き者は自らの罪を知り
他の者の罪を語らず

罪深き者は自らの罪を認めず
自らの正義を語り
罪浅き者は自らの罪に苦しみ
他の者には愛の言葉にて語る

知恵なき者が愛を説くならば
自らの罪を知る者を苦しめ
罪深き者は愛を誤解する

愛を知らぬ者が愛を語るならば
自らを愛の言葉で飾り
虚栄心を満たし
自らの語る愛の言葉に酔い
他の者の尊厳を傷つけ
慢心する

知恵なき者は
愛の美しさを語れども
不毛な愛となり
愛を知らぬ者が愛を語るならば
言葉は武器となり
愛の言葉にて傷つける

罪深き者は愛の言葉を語れども
愛の言葉にて他の者を傷つけ
神の如く語り
自らの罪を知らず
罪深き者は愛の言葉を語れども
他の者を束縛し
偽善者となり

自らの罪を知らず

神は自らの罪に苦しむ者を許す
されば自らの罪を認めぬ者の罪は重く
神の許しを得られず
されば自らの罪を知らぬことは
言い訳となり
神の許しを得られず

自らの罪を知るならば
神に許しを求めよ
自らの罪に苦しむならば
神に許しを求めよ
言い訳をするならば
神の許しは得られず

すべての言い訳を捨て
神に許しを求めよ
すべての者は罪なくして生きることが
されば神に許しを求めぬことが
自らの罪であると知れ

灯台

多くの人を導く灯台である必要はないのです
多くの方は灯台を見て灯台であろうとするのです
しかし灯台である必要はないのです
自ら光を放つ灯台である必要はないのです
休みなく働き続ける灯台である必要はないのです
自らを幸せにすることです

笑顔を暮らせる日々を大切にしてください
身近な人と笑顔で話せる日々を大切にしてください
多くの人を導く必要はないのです

常識ある日々を大切にしてください
あなたの幸せは身近なところにあるのです
何か特別なことをしなければ幸せになれないと考えるべきではないのです
どこか遠くに幸せがあると考えるべきではないのです
特別な祈りは必要ないのです
特別な人間になる必要はないのです
神について語ることだけが大切ではないのです
毎日笑顔で暮らすことが大切なのです

悲しみにくれるとき
神はあなたと共に涙を流すのです
絶望の淵に沈むとき
神はあなたを見守るのです
祈れども祈れども神に心通じぬとき
神はあなたが気付くのを待っているのです
あなたを助けてあげたくとも
あなたが気付かねばならぬことなのです
だから神は見守っているのです

あなたがそれに気付いたとき
神はあなたを祝福するのです
よくがんばったねと手を差し伸べるのです
そしてあなたがまた笑顔を取り戻したとき
あなたの笑顔はより輝くのです

その笑顔の輝きが人の心を豊かにするのです
その笑顔の輝きが人の心を明るくするのです

平凡なる日々を愛しなさい
身近な人と笑顔で話せる日々を大切にしなさい
常識ある人になりなさい
心豊かでありなさい
灯台であろうと思わないことです
空の青さ 木々の緑の美しさを忘れないことです
毎日笑顔の絶えない家庭が大切なのです

眠りに着く前に今日一日を神に感謝できる日々でありなさい
特別な祈りでなくてよいのです
神はいつもあなたを見守っているのです
神はいつもあなたと共にあるのです
神に選ばれた人間である必要はないのです

苦しいこともあるでしょう
悲しいこともあるでしょう
しかしその中に神の教えがあることも多いのです
それに気付くことです

神はあなたを見捨てたのではないのです
神はあなたが立ち上がるのを待っているのです
神はあなたが立ち上がらなければならないのを知っているのです
神はあなたを見捨ててはいないのです
神はあなたの苦しみを背負っているのです
そしてあなたが立ち上がるのを待っているのです

あなたがその苦しみから
その悲しみから
立ち上がったとき
あなたは神の教えを学ぶのです
その学びがあなたの笑顔をより輝かすのです
その輝기가多くの人々に喜びを与えるのです
その輝기가多くの人に愛を与えるのです
その輝기가いつしか

あなたの周りに愛の花を咲かせるのです
そしてあなたが輝く存在になったとき
あなたは多くの人々を導く灯台になっているのです

神殿

神殿にて如何に神の名を呼べど
その声は神に届かず
神殿にて如何に祈れども
その祈りは神に届かず
神殿にて如何に助けを求めれど
その求めに神は応じず
されば人は神を恨み
自らの供えし物を悔やむ

されど何ゆえに自らの声が
神に届かぬか考えず
されど何ゆえに自らの祈りが
神に届かぬかを考えず
されど何ゆえに自らの求めに
神が応じないのかを考えず
ただ神の存在を疑い
自らの労力と供物を惜しむ

もし神殿にて神の名を呼べど
その声が神に届かぬのであるならば
もし神殿にて助けを求めれど
その求めに神が応じなければ
答えなきことが
神の答えであると知れ

汝に必要なことは祈ることではなく
自らの努力である
されば神殿を去り
最善を尽くせ
それが神の答えなり

神霊のご紹介

神霊T

紀元前のギリシャで都市国家の国王であったと思われます。
非常に知的な印象を受ける神霊であり、緻密な教えを説かれます。

神霊O

紀元前のギリシャで都市国家の国族であったと思われます。
非常に優雅な印象を受ける神霊であり、思慮深い教えを説かれます。
神霊Tとは血縁関係にあったと思われます。

神霊H

紀元前のギリシャで都市国家の王子であり、若くして戦死したと思われます。
知的な印象はありますが、独自の観点から教えを説かれます。
神霊Tの息子であったと思われます。

神々の言葉 信仰編

<http://p.booklog.jp/book/24174>

著者：星 良謙

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/raifuku/profile>

発行所：ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/24174>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/24174>